（別添資料１）

事業所名　通所支援事業所ピース（児童発達支援）

支援プログラム（参考様式）

作成日　令和6　年　7　月　26　日

法人（事業所）理念		私たちはTEACCH的手法を軸に、ＡＢＡ、ＰＥＣＳを活用し、各児童の個々のニーズに応じた個別化された支援を提供します。					
支援方針		TEACCHの1、自閉症の特性を理解する2、保護者さんとの共同3、治癒ではなくよりよい生活をゴールとする4、個別に正確な評価を行なう5、構造化された指導を行なう6、認知理論と行動理論を重視する7、スキルを伸ばし弱点を受け入れる8、ジェネラリストモデル9、生涯にわたり地域に根差した生活を送る　という基礎理念を軸に、ＡＢＡの行動分析とＰＥＣＳのコミュニケーション支援を通じて、個々のニーズに合わせた支援を提供を目指す。					
営業時間		9 時 30 分から 15 時 0 分まで			送迎実施の有無	あり　送迎可能な地域が決まっている為ご相談下さい	
		支　援　内　容					
本人支援	健康・生活	スケジュールや、ワークシステム手順書などの視覚支援を活用しながら、朝の準備、着替え、手洗い、トイレなどの基本的な生活習慣を身に付ける。 構造化等による生活環境の調整：生活のなかで、様々な遊びを通した学びが促進されるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する（ビジュアルサポートの活用）					
	運動・感覚	運動遊び：視覚支援で流れを伝え取り組みやすい環境を整え、トランポリン、バランスボール、バランスストーン、風船遊び、ボール遊び、ジャンプ、バランスをとる運動等を行い身体機能の発達の向上を目指す。 感覚遊び：粘土遊び、プレイフォーム、スライム遊び、スクイーズ等の感覚あそびから必要とされる感覚刺激を取り入れ、感覚機能のバランスを整えられるように活動を設定する					
	認知・行動	一人ひとりの認知の特性を理解し、それらを踏まえ自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援する。（理解のアセスメントの実施） 概念形成の手掛かりとして、プットイン、一対一の対応、マッチング、分類、パズル、数、色などの課題を興味関心やビジュアルサポートを活用しながら取り組む。					
	言語 コミュニケーション	必要なおこさんに対してはＰＥＣＳを活用し、表出機能の向上を図る。スケジュール等のビジュアルサポートを活用し、コミュニケーションの受容の理解を高める。活動に見通しを持つことにより、中止や変更などをコミュニケーションとして表出する機会に繋げていく。					
	人間関係 社会性	ビジュアルサポートの活用により見通しを持つことで、安心した環境の中で過ごせるように努める。その安心した環境のなかで支援者に対して信頼感を育み、支援者との遊びなどを通した関わりによりアタッチメントの形成をより安定させていく。					
家族支援		家族の子育てに関する困りごとに対する相談援助 保護者会の開催 研修会の開催			移行支援	保育所等への移行支援 並行利用先との連携 事業所外活動を通して地域に親しむ	
地域支援・地域連携		こどもが通う保育所等や各関係機関との連携 担当者会議等への参加			職員の質の向上	研修会等への参加 ケース会議の習慣化 よこはま発達グループによるコンサルテーションの活用	
主な行事等		季節の製作・避難訓練（年2回）・事業所外活動・クリスマス会・陶芸体験活動					